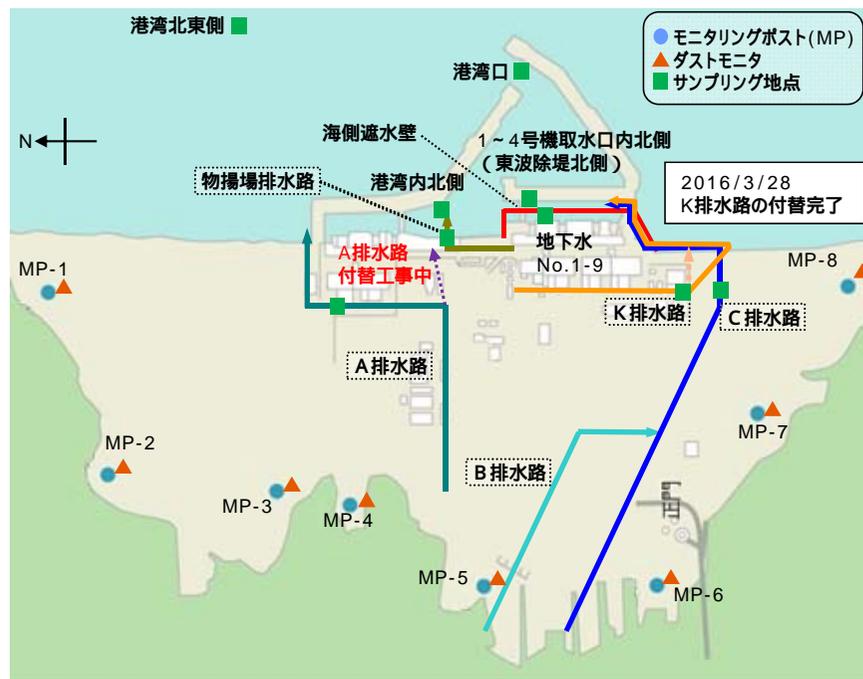
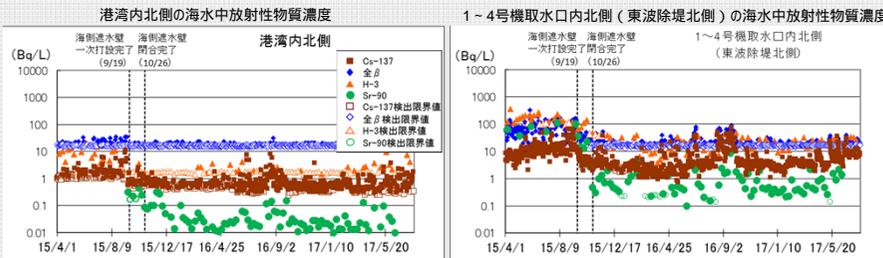


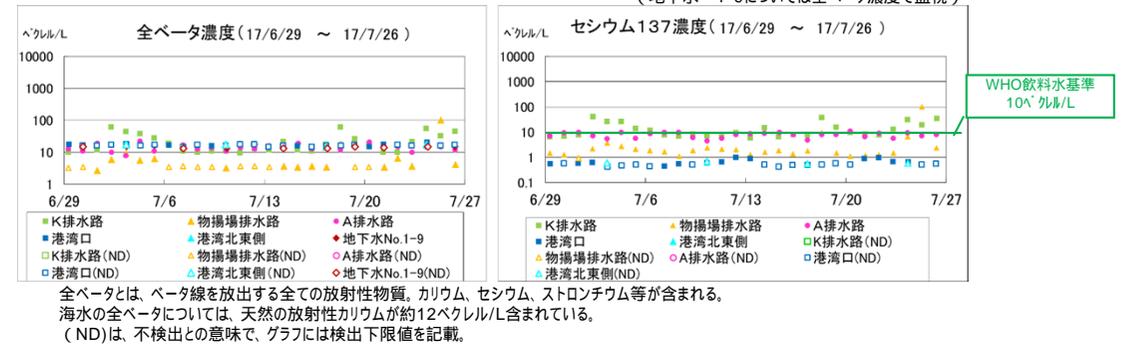
- 前回(6月29日)以降のデータ公開数は約9,500件  
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約9,500件を公開しました。
- 1号機建屋カバー壁パネル取外し完了 敷地内ダスト(粉じん)濃度は安定  
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し(2015年10月5日)以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、2016年9月13日から壁パネルの取外しを開始。11月10日に全18枚の取外しが完了し、オパフロ調査を実施しています。2017年7月12日にモニタリングポスト7(MP-7)付近に設置したダストモニタにおいて発生した高警報については、当該ダストモニタ付近における大気中の天然核種による影響と推定しています。また、念のため当該ダストモニタの交換を実施しています。これ以外これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定  
降雨の多い季節となり、1～4号機取水路開渠内及び港湾内海水の放射性物質濃度に上昇が見られましたが、降雨後は海側遮水壁閉合に伴い低下した濃度に戻っております。引き続き、排水路の清掃や敷地全体の除染を行うとともに、港湾内の水質を監視していきます。



データ採取位置図(右のA、B、C等に対応するポイント)

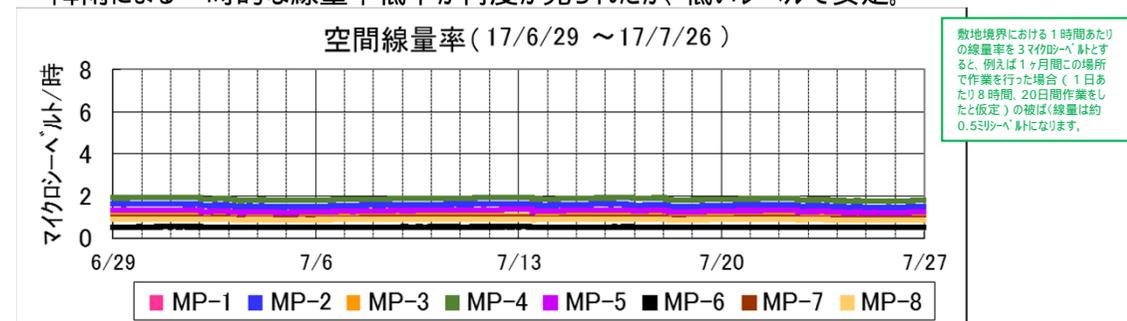
## A 水(海水、排水路、地下水等)

- K排水路では、降雨時にセシウム137、全ベータ濃度が上昇。
- セシウム137は、降雨時のK排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。  
(地下水 1-9については全ベータ濃度で監視)



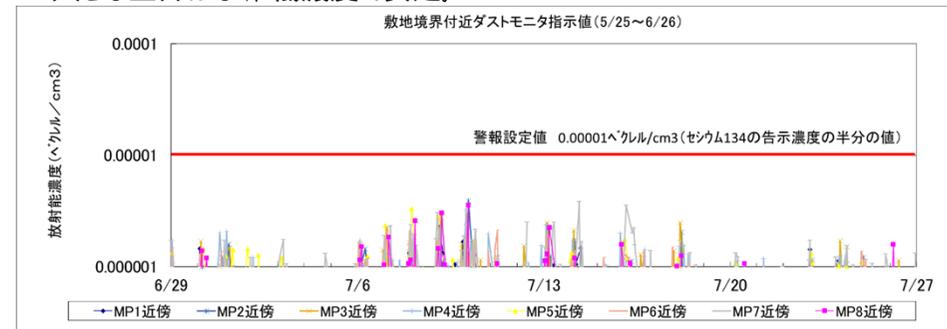
## B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



## C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

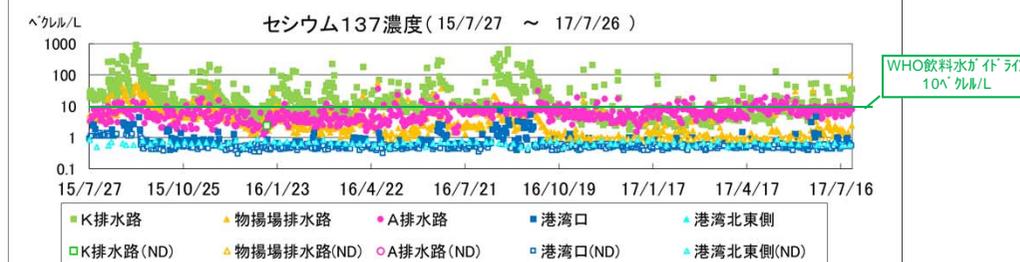
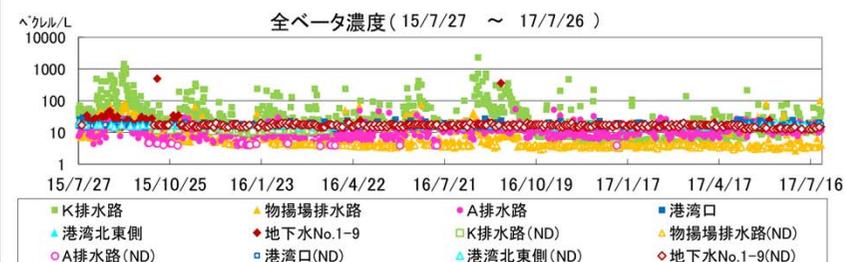


7月12日 8時48分 MP7近傍連続ダストモニタにて「高警報」が発生。調査の結果、天然核種による一時的な上昇と推定告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

# 放射線データの概要 過去の状況

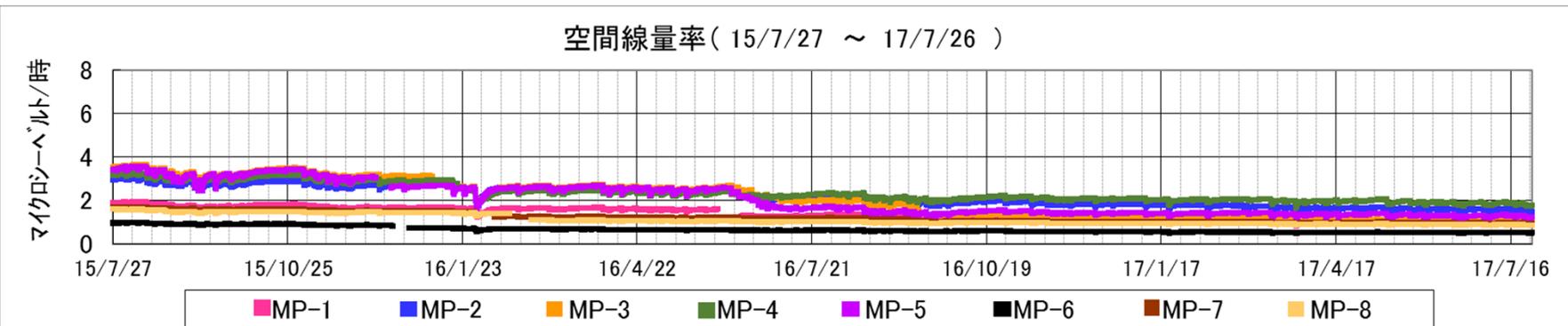
## A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路の降雨時の濃度上昇は減少傾向。引き続き清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



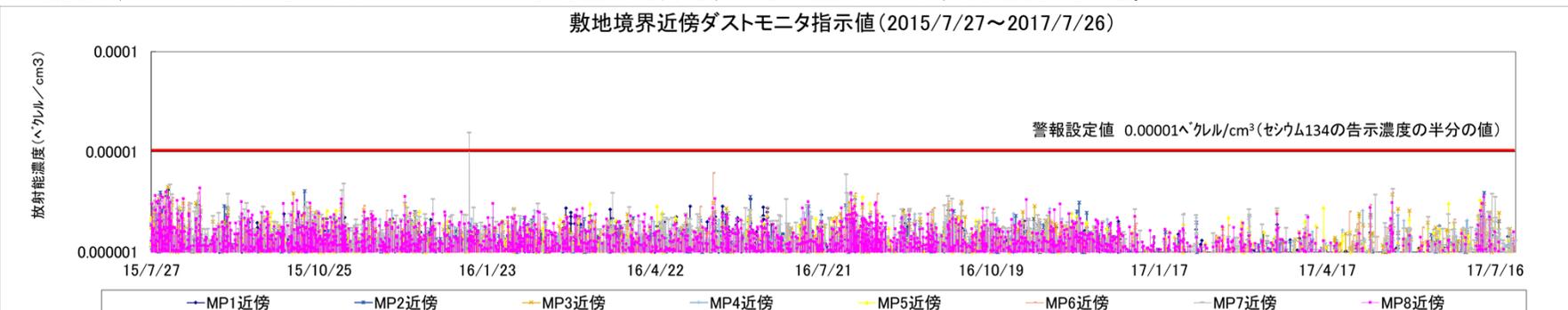
## B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



## C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



・MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

# サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

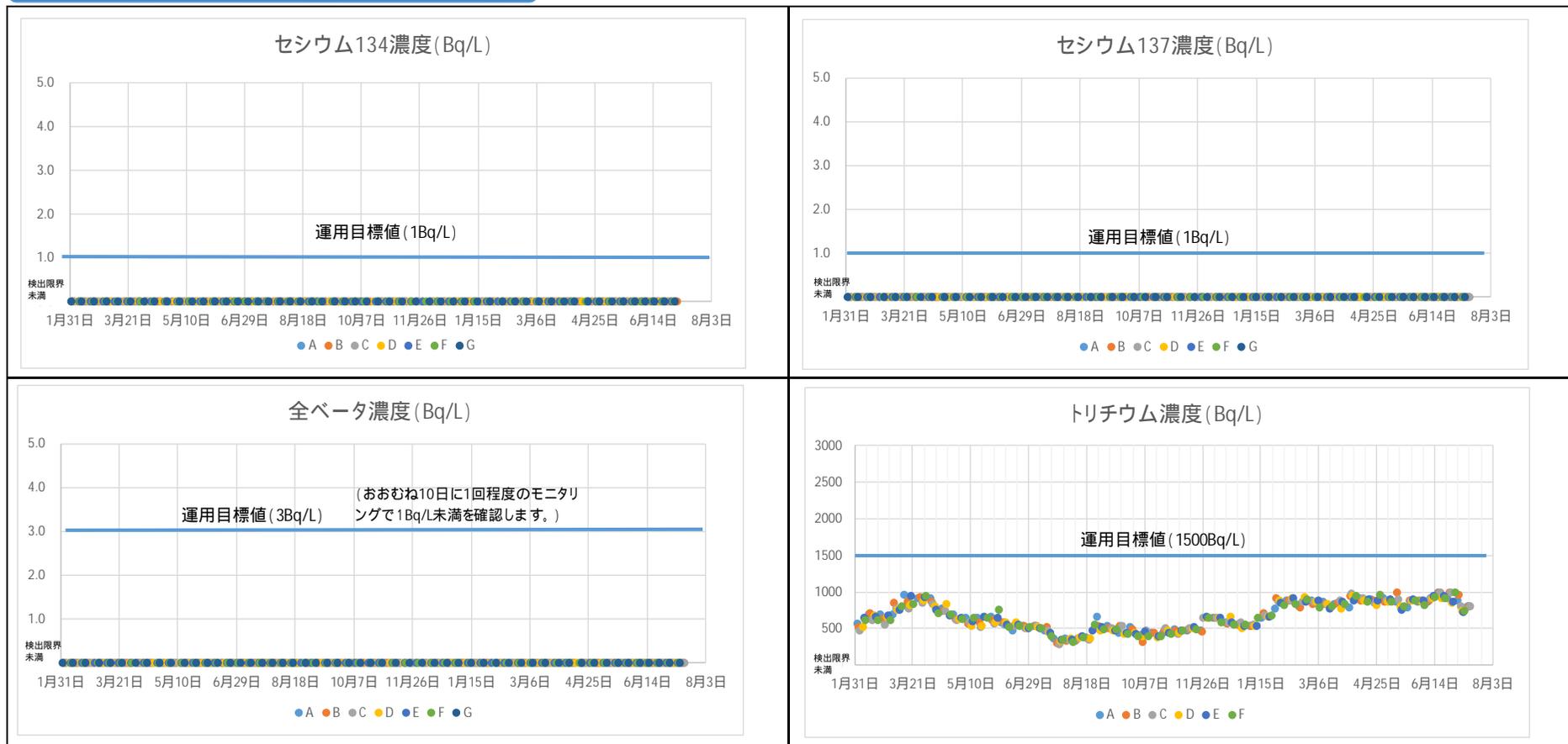
## 分析結果・排水の実績

一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認しました。

同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2017年7月26日までに合計451回、371,383m<sup>3</sup>を排水しました。

今後も、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底してまいります。

## 一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

# 1～3号機復水器内貯留水の水抜き作業における被ばく低減対策について

- 建屋内に残る放射能濃度の高い貯留水によるリスクの低減を目的に、1～3号機復水器内貯留水の水抜き作業を進めている。
- 2017年6月6日に、1～3号機復水器内ホットウェル天板上部までの貯留水の水抜きが完了。  
(1号機：2016年10月5日～11月25日、2号機：2017年4月3～13日、3号機：2017年6月1～6日)

## 【1号機】

- 1号機復水器ホットウェル天板下部貯留水の水抜きに向けて、6月下旬から作業を開始。まずは6月28日にホットウェル天板マンホールの開放を実施。その後、作業エリアの干渉物の撤去やポンプ・移送ライン等の設置を行い、2017年8月初旬を目途に水抜き作業を実施予定。
- 抜き取った水は、ホットウェル天板上部の水抜き時と同様に、1/2号機廃棄物処理建屋経由でプロセス主建屋または高温焼却炉建屋へ移送し、その後、処理装置にて処理する。
- 復水器内貯留水の水抜き作業において、作業員の被ばく低減の観点から実施した代表的な対策は以下のとおり。

### 【線源】 遮へい体を設置

高線量である地下階からの線量寄与を抑制するために、足場に鉛マットを固定した遮へい体を設置することで作業場所の線量低減を図り、作業員の被ばくを低減。

### 【距離】 ホットウェル天板マンホール開放作業等は遠隔で実施

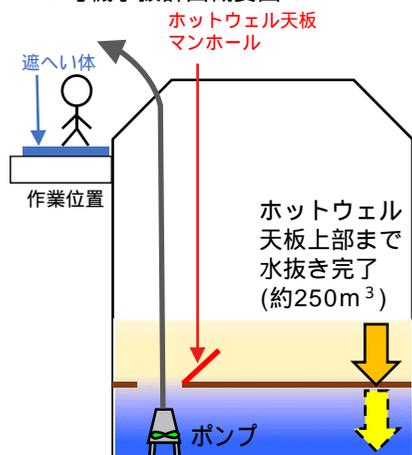
2017年5月～6月にモックアップを実施し、約10m離れた場所からの遠隔作業が可能であることを確認。復水器ホットウェル天板マンホールを遠隔開放することにより、直接作業が困難な高線量エリア(数10～数100mSv/h)での作業を作業可能エリア(約0.5mSv/h)から遠隔で実施することができ、作業員の被ばくを低減。

### 【時間】 ホットウェル天板マンホール開放モックアップの実施

モックアップで遠隔操作を習熟することで、現場での作業時間を短縮し、作業員の被ばくを低減。

- 以上の対策等を実施し、作業員の被ばくを大幅に低減。遮へい体設置においては、対策後の作業場所の雰囲気線量は約0.5mSv/hとなり、対策前の約2.5mSv/hに対して、雰囲気線量を約80%低減することができた。また、マンホール開放・干渉物撤去等の一連の遠隔作業における当初計画時間は約120時間を見込んでいたが、モックアップにより遠隔操作を習熟することで、現場作業は計画を大きく下回る約20時間で実施できた。
- 2,3号機についても、1号機と同様に復水器ホットウェル天板下部にポンプ等を設置し、2017年度中に水抜き作業を行う予定。復水器内部の調査には、自走式カメラを用いて、低線量エリアから遠隔で確認することによって作業員の被ばく低減を図る。

1号機水抜き計画概要図



8月初旬から復水器底部まで水抜き開始予定(約250m<sup>3</sup>)

